

2022 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	文屋 典子	職名	講師	学位	修士(社会学)(関西学院大学 1994年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研究課題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担当授業科目
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(前期) ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(後期) 子ども家庭支援論(前期) ファミリーソーシャルワーク論(前期) ソーシャルワーク演習(後期) ソーシャルワーク実習Ⅰ(通年) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(通年) 相談援助実習(通年) 相談援助実習指導Ⅱ(通年) 保育実習Ⅲ(通年) 保育実習指導Ⅲ(通年) 基礎実習(通年) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 】 ソーシャルワーク実践におけるミクロ・メゾ・マクロの視点とソーシャルワーク実践のプロセスと支援展開で求められる技術について解説する中で、具体的な事例を用いて、ソーシャルワーク援助の対象となる人々の生活状況やニーズ・困難さを具体的にイメージしつつ、「解決のために何が求められるか」を学生が主体的に考え、ソーシャルワーク援助に求められる知識・技術・倫理を習得することをめざして授業展開を行った。
授業科目名【 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 】 ソーシャルワーク実践を支える理論モデルとアプローチについて、アセスメントや介入における各アプローチの固有の視点や基盤理論を理解することができるよう、具体的な事例を用いて解説すると同時に、既習科目で習得した知識とも関連づけながら解説を行った。
授業科目名【 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 】 カリキュラム改正により、これまで3年生で実習に臨んでいたものが1年前倒しとなったため、学生の社会性と専門性の未熟な部分を実習に臨むにふさわしい程度まで高められるよう、個別指導や日常的な関わりの中で繰り返し助言指導を行うよう心がけた。子どもの発達や特性、障害の理解、援助の実際について事前学習での取り組みが十分ではなかったと反省すべき点があり、次年度さらに改善に取り組みたい。

<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】</p> <p>実習前の事前学習では個別指導を強化し、各自の関心事と実習で学びたいこと、準備性をふまえた上で実習目標をたて、各自が準備して実習に臨めるよう指導を行った。前期実習後には各自の反省・課題と後期実習開始までに取り組むべきことを明確にして実行すること、後期実習では自身の成長や達成感を実感できるような学びを得られるよう実習の振り返りと事前学習とをサポートした。実習後の振り返り、学びの報告においては個別指導と同時にグループワークを用いた。当初は学生間の相互作用をファシリテートする必要があったが、徐々に一人ひとりが積極的に意見を交わすようになり、振り返りの作業から全体報告会に向けての発表準備に協力して取り組む中で、ディスカッションが活性化しさらに学びを深めることができた。実習報告の内容は、実習先の実習指導者からも高い評価を得た。</p>
<p>授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】</p> <p>これまでの保育実習やさまざまな授業を通して学んできたことを整理し、自身の課題をふまえつつ実習目標を設定するために個別指導を強化した。視聴覚教材を用いて実習施設の役割・機能や対象者理解について知識を確認し、実習記録の方法について個別指導を行った。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいては、学生の学びや課題を整理し実習報告会を実施、実習のまとめを行った。</p>
<p>授業科目名【 子ども家庭支援論 】</p> <p>現代の子どもと家庭を取り巻く状況を概観し、保育士に求められる家庭支援、保護者支援の方法と基盤となる法制度、活用する社会資源について、福祉・保育の既習科目やソーシャルワークに関する知識や理論と関連づけて解説を行った。家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家庭支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに努めた。</p>
<p>授業科目名【 ファミリーソーシャルワーク論 】</p> <p>現代の家族の抱える課題や特徴を理解し、家族を取り巻く社会的状況との交互作用として家族の状況を捉えること、支援の展開について多角的に考察することにより、ソーシャルワーク専門職に求められる現象の捉え方、様々なアプローチに基づく多様な分析枠組みを持つことの重要性に学生自身が気づくことを主軸として授業を展開した。</p>
<p>授業科目名【 ソーシャルワーク演習 】</p> <p>理論系科目より先行して、演習を通してソーシャルワーカーの視点、ソーシャルワークの価値と倫理、相談援助におけるコミュニケーション技法、ソーシャルワークの展開プロセスについて学ぶ科目である。専門的な用語や概念についての説明を丁寧に行うと同時に、事例やグループワークを活用して学生一人が考えること、自分の意見を表明すること、他者の意見を受け入れ、グループの話し合いをさらに発展させることができることを経験しつつ、今後、専門科目で学ぶ内容を理解し吸収する土台を形成することをねらいとして授業を展開した。</p>
<p>授業科目名【 基礎実習 】</p> <p>福祉学科に入学したからこそボランティアや実習で多くの人と出会い、学びたいという意欲の高い学生が履修しており、初めての現場で戸惑いや困難に直面しながら人と関わることを実践的に学ぶことができた。現場での被援助者とのかかわりを通して学ぶのみでなく、学生同士の学び合いや支え合いを通して、人とのかかわり、多様性や共生社会を創り出していくことについて考えを深めることができるよう、実習前後のグループワークの展開やファシリテーションに注意を払いつつ授業を進めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月～ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月～ "
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月～ "
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月～ "
日本小児保健学会		1997年5月～ "
日本保育学会		2011年10月～ "

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. 重度の障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験 —当事者の語りの分析から—	共	2022.6	第69回日本小児保健協会学術集会（於：三重県総合文化センター）	①障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験について、インタビュー調査で得たきょうだい自身の語りを分析した結果、きょうだいは成長とともに周囲の人とのかかわりや社会的体験を通して、同胞に対する捉え方や同胞や親に対する思いを変容させ生活していること、きょうだいの位相に応じた支援を提供することが必要であるとの示唆が得られた。 ②樋口由貴子、笹月桃子、山本佳代子、 <u>文屋典子</u> 、野井未加 ③第69回日本小児保健協会学術集会講演集 P128

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
ソーシャルワーク実習プログラムの開発	西南女学院大学保健福祉学研究所	○荒木剛、通山久仁子、岡田和敏、中川美幸、山本佳代子、江藤くるみ、 <u>文屋典子</u>	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
社会福祉法人あゆみの森たけのこ会	評議員	2021年3月～
社会福祉法人栄光園	評議員	2021年7月～
特定非営利活動法人学童保育協会	放課後児童支援員認定資格 研修会講師	2017年度～
ほっと子育てふれあい事業業務運営 事業者選考委員会	委員	2023年2月～3月31日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生委員 就職委員 吹奏楽部顧問
